

趣味で・デートで・ふれあいで  
楽寿園に行こう、応援しよう

### デートは楽寿園で♡カップルウィーク♡

「カップルウィーク」を設け、年に5回カップルの楽寿園の入園料が無料となるサービスやイベントを行います。2人の思い出に楽寿園を訪れてみませんか。

**カップルウィーク（予定）** ▶10月7日(火)～13日(月・祝)  
▶12月(クリスマス) ▶2月(バレンタインデー)  
▶3月(ホワイトデー) ▶平成27年7月(七夕)

**対象** 高校生以上の男女2人組※家族での来園は対象外

**内容** 楽寿園入園口で「カップル証明書」に名前を記入し、窓口にて提出することで入園料が無料となります。

**問合せ** 楽寿園 (☎975-2570)

### 秋のどうぶつふれあい広場

**とき** 9月15日(月・祝) 午前10時～午後3時30分

**ところ** 園内どうぶつ広場

**内容** アルパカやヤギがふれあい広場に登場。そのほか様々なイベントを開催予定。



### 水石展

**とき** 9月13日(土)～15日(月・祝) 午前9時～午後4時30分

**ところ** 園内展示場

**内容** 愛好家の集めた銘石の展示、相談および販売

### 楽寿園ガイドツアー開催

園内を一周しながら、楽寿園の歴史や自然、イベントなどの紹介をするガイドツアーです。

**とき** 9月～12月の第1土曜日・第3日曜日午前11時からと午後2時からの1日2回

**ところ** 楽寿園駅前口に集合

**費用** 入園料のみ※事前申し込み不要

**問合せ** 楽寿園 (☎975-2570)

### 楽寿園応援隊に参加しませんか

楽寿園が好きという思いから活動する「楽寿園応援隊」に、現在15人が登録しています。活動に興味のある人は、ぜひ説明会に参加してください。

#### ●応援隊について

**活動日** 毎月第3水曜日ほか、月に数回

**内容** 庭園整備、イベントサポート、動物飼育の手伝いなど

**申込み・問合せ** 楽寿園 (☎975-2570) にて随時受け付けています。※登録にはボランティア保険加入代として300円が必要です。

#### ●説明会を開催します

**とき** 9月10日(火)、13日(土)午前10時から

**ところ** 楽寿園内お休み処桜

**申込み・問合せ** 楽寿園 (☎975-2570)

## 月指定で市内での効果的な広告につながられます 平成27年（2015年）版市民カレンダーに広告を掲載しませんか

市民カレンダーは、市内の自治会・町内会を通じて配布され、公共施設などにも設置されます。目に触れやすい市民カレンダーに、事業所やお店の広告を掲載しませんか。

※応募多数の場合、三島市広告掲載要綱第3条に基づき、市内に事業所があるなどの優先順位内で抽選となります。

**掲載箇所** カレンダー各月下段

**掲載料（1枠）** 月指定：50,000円、月指定なし：30,000円※月指定が優先となります。

**募集枠** 36枠（各月3枠）※応募数が36枠に満たない場合、空き数に応じて最大12枠（ひと月1枠）まで掲載可能です。

**サイズ** 縦5cm×横10cm

#### 必要書類

▶市民カレンダーの広告掲載申込書

▶会社・団体の概要がわかる案内やパンフレットなど

▶掲載する広告案

**申込み・問合せ** 9月12日(金)までに、カレンダー広告掲載申込書（広報広聴課備え付け、市ホームページからダウンロード可）に必要事項を記入して、広報広聴課（市役所本館2階 ☎983-2620）へ直接提出。

※政治や宗教に関するもの、公序良俗に反するものなど、一部掲載できない広告もありますので、詳細は広報広聴課までお問い合わせください。

## 幕末の三島宿 —遊撃隊の奮闘—

今回は、幕末から明治の初めに  
かけて三島宿で起こった出来事  
について紹介します。

慶応三年（一八六七）十月に徳川慶喜が大政を奉還し、江戸幕府の廃止と新体制の成立が決定します。翌年一月に戊辰戦争が開戦され、旧幕府軍が鳥羽伏見の戦いで敗れると、各地で新政府軍に抵抗する旧幕府勢力が戦いを繰り広げました。そのため、交通の要である東海道の宿々も緊迫した状況になりました。

慶応四年（一八六八）四月、旧幕府勢力により構成された三百人程の遊撃隊が、真鶴に上陸してきました。彼らの目的は、小田原藩の大久保家や、伊豆の葦山代官江川英武を説得し、徳川家再興のための拳兵に協力を得ることでした。しかし、これはかなわず、彼らが加勢を募ろうと考えていた駿河の諸藩はすでに官軍に従う意思を示

していました。

その後、徳川家からの使者や、沼津藩からの説得もあり、遊撃隊は沼津（香貫）で待機していました。そこへ、江戸（上野）寛永寺における旧幕府勢力と官軍の開戦の一報が入ります。五月十八日、遊撃隊は江戸へ向けて沼津を立上し、三島宿を訪れます。

三島宿では、本陣世古六太夫をはじめ、問屋役人一同が遊撃隊を千貫樋まで出迎えています。これは、宿場には徳川家康以来幕府に恩のある人が多かったためといわれています。

遊撃隊の到着に、三島宿の住民は今にも戦争が起ると動揺し、家財道具を持ち遠い村へ逃げる者や、山中へ逃げる者、新町橋の下に隠れる者など大混乱しました。三島宿には遊撃隊が宿泊した記録も残っています。

三島宿へは官軍方も詰めており、大社近くに新しい関門ができ、遊撃隊は三島宿を通り、大社の大鳥居に大砲を縛りつけて威嚇をするなどの騒ぎがありました。宿内にさほど被害はありませんでした。

その後、遊撃隊は、箱根戦争で敗れ、熱海の網代まで退却します。その後、奥羽越列藩同盟に参加し、函館戦争へと向かいます。江戸幕府崩壊から明治政府樹立までの内乱では、中央の政局だけでなく、時代を憂う若き武士たちも、各地でその流れに巻き込まれていきました。



▲遊撃隊の宿泊記録



▲明治初期作成と思われる三島宿絵図



ふるさとの人物ゆかりの地⑥

山本 玄峰

山本玄峰老師は、大正四年（一九一五）から昭和二十六年（一九五二）まで龍澤寺の住職を務めた名僧です。

沢地の龍澤寺は白隠開基の古刹として有名ですが、玄峰老師が入寺された当時は荒れ果てて廃寺寸前でした。

老師は禅堂の改修に着手して伽藍を再興させるとともに托鉢を通じて禅道を広め、龍澤寺には老師の徳を慕って多くの信者や禅僧が集まるようになりました。

政財界にも老師を師と仰ぐ人が多く、戦争終結にあたって鈴木貫太郎首相が老師を訪れたことも有名です。

昭和三十六年（一九六一）六月三日、「旅に出る、支度をせい。」と言い残して九十六歳で亡くなり、遺骨は龍澤寺ほかゆかりの各地に分骨されています。



▲龍澤寺境内